



亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部
題字：波多江啓峰

吟友



水城趾

(撮影 花田宏陽)

ますらをと 思へる我や 水茎の

水城の上に 涙のごはむ

この和歌は、天平二年(七三〇年)大宰帥であった大伴旅人が、大納言昇進の爲、京の都へ向けて旅立つ際、水城に馬を駐めて、遊行女婦「児島」との歌の遣り取りを行った時の歌と伝えられています。「文武両道の立派な男子だと自認していたこの私が、多年住み慣れた筑紫を後に、親しい人達とも別れて帰京する悲しさに、水城の上から立つて、不覚にも涙を流しています。」と詠んでいます。

今から三六〇年前の六六三年、百済を救援するため派兵しましたが、白村江の戦いに大敗しました。朝廷は、唐・新羅からの攻撃を恐れ、防衛施設(人工の土塁)として、全長約二、二キロメートルにも及ぶ、この「水城」をはじめ、各種防衛策を実行しました。

歴史書「日本書紀」には、「天智三年、対馬嶋、壱岐嶋、筑紫国などに防と烽を置く。又、筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ。名づけて水城という。」とあります。

現在では、「水」という文字を使うのか疑問に思う人も多いようですが、当時は満々と水を貯えた濠と見上げるような大きな土塁があったのです。

その後、大宰府が整備され、水城はその外郭の守りとなります。当時は、東西二ヶ所だけに門があり、官道を通じて古代の迎賓館施設である鴻臚館や都に繋がっていました。この二つの門は、大宰府へ出入りする人々の出会うの場、別れの場ともなり、数々の物語が残されています。

旅人と見送りに来た「児島」との別れに際しての歌のやり取りも、その二つです。ほかに、平安時代後期の貴族で、歌人の源俊頼や、鎌倉時代の公家で歌人の藤原光俊もこの水城の地で和歌を残しています。



新緑の美しい時節となりました。会員及び後援会会員の皆様におかれましては益々ご壮健にてお過ごしのことと拝察しています。

又、平素の本会の活動と運営に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

春は花 夏ほととぎす

秋は月

冬雪冴えて 冷しかりけり

この歌は、鎌倉初期の僧で、日本曹洞宗の開祖道元禪師の作と伝えられています。

正に、古来、日本の四季の移り変わりの素晴らしさを称賛した和歌であります。

幾多の文人墨客は、春夏秋冬折に触れ、その美しい花鳥風月を賞でると共に、多くの格調高い詩歌を謳い上げて来ましました。

これまでは、少しばかりのズレ

はあつても、ほぼ規則正しく移り変わって来た日本の四季が、地球温暖化の影響か、極端な季節感に翻弄されているように思われます。特に春夏秋冬の変わり目に違和感を持つのは、私一人でしょうか。

二川相近作の筑前今様に「花の錦もいつの間に緑に変わる夏の山涼しき風をまつの戸に山ほととぎす おとずる」というのがあります。正に「いつの間にか」季節が移り変わったことを詠んだものですが、昨今は冬からいきなり夏へ、と思っていれば、又冬へ逆戻りしたような寒さが訪れるなど、まさに異常気象の連続です。

その上、地球上の人々を震撼させているのが、新型コロナウイルスの大流行で、発生以来、早、3年が経過しましたが、未だに終息、収束の気配が見えない状況です。健康や人命に対する重大な危機であ

り、医療体制、経済問題等私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

又、寅年は大きな事件が起こると予見する人がいました。この2月、世界を震撼させた戦争がヨーロッパで勃発しました。同じような虐殺や略奪が、今から77年前、北方領土や満州で行われ、多くの日本国民が犠牲になったことは、よく知られています。

満州からの引き揚げ者の私として他人ごとではなく、犠牲者に対して哀悼の意を表します。

21世紀の現在、このような人権蹂躪が行われようとは、信じがたいことですが、平和を謳歌してきた私達は、大きな衝撃を受けています。世界中の人々の英知で、一日も早く平和が訪れることを祈るばかりです。

このように、私達を取り巻く環境は、大変厳しいものがあります。心身ともに健康で、生き生きと心豊かに吟詠人生を楽しめるのも日本が平和で、豊かな社会の実現が前提で

す。お陰様で、春秋の吟詠大会を始め各種団体の吟詠大会や地域の文化活動に参加できていることは誠に意義深く、且つ、有難く、ご同慶に堪えません。会員の皆様の更なるご支援とご協力をお願いいたします。

さて、最近、私は、親しい吟友から、次のような言葉を頂戴しました。なかなか含蓄のある言葉なので、反省の気持ちも込めて皆様にもご紹介したいと思った次第です。

- 一、性格は「顔」に出る。
 - 一、生活は「体型」に出る
 - 一、本音は「仕草」に出る。
 - 一、美意識は「爪」に出る。
 - 一、清潔感「髪」に出る。
 - 一、気配りは「食べ方」に出る
 - 一、芯の強さは「声」に出る。
 - 一、ストレスは「肌」に出る。
 - 一、落ち着きのなさは「足」に出る。
 - 一、人間性は、「弱者への態度」に出る。
- 軍事大国が同じ民族である「弱者」を攻撃し、虐殺し、略奪する姿は、正に「人間性」そのものでしょう。

源平歌合戦余話

華々しく戦った源平の将兵の影
にあって、波乱万丈の人生を送っ
た、悲しくも憐れな女性達の和歌
もご紹介しましょう。

平清盛の寵愛を受けた白拍子
祇王の悲話は、同じ白拍子仏御前
との運命的な出会いとその後の交
流の物語として伝えられています。

祇王は、平家の家臣江部九郎時
久の娘として生まれ、成長して母
の刀自、妹の祇女と共に京の都で
も有名な白拍子となった祇王は、
清盛の寵愛を受けることになりま
した。

しかし、間もなく清盛の寵愛は
仏御前へと移り、邸宅を追われるに
際し、襖に次の和歌を認めました。

「萌え出づるも 枯るるも同じ」

野辺の草
いづれか秋に 遭わで果つべき

季節が移り、秋になればばいず
れは野辺の草のように、果ててしま
うものです。私も何れは寵愛を失
うことは覚悟していましたがと静か
に去って行きました。



白拍子姿の祇王

その後、母と妹と共に嵯峨野の
往生院に移り尼となり、38歳で亡
くなりました。

平忠盛の正室宗子は、清盛の継
母に当たります。後に崇徳天皇の
皇子重仁親王の乳母となりまし
た。忠盛との間に家盛、頼盛を産
んでいます。忠盛の妻たちの中で
最も重んじられていました。

夫忠盛の死後、出家し、六波羅
の池殿で暮らしたことから池禪尼
と呼ばれました。平治の乱で清盛
が勝利し、源義朝は家人に謀殺さ
れました。義朝の嫡男頼朝は捕え
られ殺されようとしたが、こ
の時、池禪尼が清盛に助命を嘆願
し、頼朝は伊豆に流刑に減刑され
ました。

頼朝は、池禪尼の恩を忘れず、

禪尼の子息平頼盛を優遇し、平
家滅亡後も頼盛の一族は朝廷堂
上人及び鎌倉幕府御家人として
存続しています。禪尼は62歳で亡
くなっています。



池禪尼供養塔(経塚)

池禪尼は、次の辞世と思しき和
歌を残しています。

「親知らず子はこの浦の浪枕
越路の磯の泡と消えゆく」

北条政子は、源頼朝の妻で、頼
家、実朝の母です。気性の激しい烈
女だったと言われていますが、静御
前が頼朝の命により、鶴岡八幡宮
の舞台で舞に合わせて歌った和歌
「吉野山峰の白雪踏み分けて入
りにし人のあとぞ恋しき」、「し
ずやしずしのおだまき繰り返

し昔を今になすよしもがな」に
激怒した時、政子は、頼朝との辛い
馴れ初めと頼朝拳兵の時の不安
を語り「静の心は、私のあの時の憂
いと同じです。多年の愛を忘れて恋
慕しなければ貞女ではありません
ん。」と、取り成しました。頼朝は、
怒りを収め静御前に褒美を与えま
した。

政子は、次の和歌を残しています。
「積もるとも五重の雲は厚くとも
祈る心に月を宿さん」

頼朝の死後、政子は頼家、実朝
という二人の子息を暗殺され、逆
縁の悲運に遭遇します。晩年は
「尼御前」と呼ばれましたが、六十
九歳で波乱に満ちた生涯を閉じて
います。



政子墓所(鎌倉・寿福寺)

建礼門院徳子は、平清盛と時子
の間に生まれた娘で、のちに第八
十代高倉天皇の皇后となり、幼帝
安徳天皇を生んだ平家隆盛の正
にキーマンともいべき女性です。



建礼門院 画像

壇の浦の戦いに敗れ、二位の尼、
安徳天皇をはじめ一門らと共に、入
水しましたが、辛くも助け上げら
れて都へと送還されたのでした。

平家物語には、女性まして歌を
詠むような人物はまれでした。彼
女が残した歌も僅かですが、それ
故、二一首が重々しく響き渡って
くるようです。正に、祇園精舎の鐘
の音のように胸に響きます。

出家して大原の寂光院で余生を
過ぐす建礼門院は、幼帝をはじめ
平家一門の菩提を弔いながら余生

を過ごします。栄華を極めた都の
暮らしがまるで嘘のような生活で
した。



大原寂光院

その寂しさを、次のように歌に託
しています。

「ほととぎす花橋の香をとめて
啼くは昔の人や恋しき」

「思いきや深山の奥に住まいして
雲居の月を外に見むとは」

ある日、義理の父にもあたる後
白河法皇が訪ねて来ます。建礼門
院の余りにもみすばらしい姿に、
法王は涙を流し続けます。建礼
門院は、自らの身を恥じながらも、
次の和歌二首を詠みました。

「このごろはいつならいてか我が心
大宮人の恋しかるらん」
「いにしへも夢になりにし事なれば
柴の網戸の久しからじな」

平家物語の末尾「灌頂の巻」で
は、昔を偲び、時鳥との涙比べの和
歌を最後に、憂き世を離れ浄土へ
と往生を遂げる建礼門院の姿を
描いています。

「いざさらば涙比べん
ほととぎす
我も憂き世にねをのみぞなく」

正に、平家物語の冒頭の名文句
を彷彿とさせる辞世の句と申せま
しょう。

建礼門院徳子が寂光院で極楽
往生を遂げた際、最後を看取った
のは、平重衡の妻輔子でした。清
盛の五男で夫の重衡は、一の谷の戦
いで敗れ、捕えられました。

重衡は、南都大衆から恨まれて
おり、身柄の引き渡しを求められ、
奈良へ送られることになりました
が、計らいにより夫妻の別れを惜
しむ機会を与えられ、別れの歌を
交わしました。斬首された夫の亡

骸を茶毘に付し、高野山に納めた
後あと、出家し大原寂光院の建礼
門院に仕えました。



平重衡の妻 輔子 画像

輔子は、夫との別れに際し、涙な
がらに次の和歌を詠んだと伝えら
れています。

「岩根ふみ誰かは問わん
ならのはの
そよぐは鹿の渡るなりけり」

重衡と輔子の再会と別れは、「平
家物語」の重要な場面のひとつとなっ
ています。重衡は、髪をひと房噛み
切つて渡し形見としました。輔子
は、重衡を白の狩衣に着替えさせ
それまで着ていたものを形見とし
ました。重衡は、「契りあれば来世
にあつてもまた会えるでしょう」と
言い残して立ち去りました。

春季大会

(第一部開催)

西日本吟詠会総本部主催
第五十九回春季吟詠大会第
一部が、令和四年三月二十日
(日) プラム・カルコア太宰府で
開催された。

今年も「新型コロナウイルス
」蔓延の影響で、出吟者が少
なかつたが、新人賞、奨励賞も
設けられ、熱気ある大会となっ
た。

六十三名の出場者が熱吟を
競い、の中から二十名が入賞
を果たし、四月二十四日開催
の(第二部)の出場権を得た。

大会会長の諫山宗家は、挨拶
の中で、皆の協力で、可能な
かぎりの感染対策を講じるこ
とにより、本日の春季大会が
無事開催出来たことを感謝さ
れた。

更に、再び会に活気を取り
戻すために、新しい吟友を勧
誘したい。私達には、テキスト
とCDという、正に緊急事態
に対する素晴らしい教材を
持っている。又この後、次々と我
が会や、各団体主催の吟詠大
会も開催される。一回でも多

くの舞台を経験することは、
皆の吟詠表現力の向上に役に
立つと思うので、是非チャレン
ジしてほしいと話された。



審査上の注意
渡辺昇陽大会会長代行



会詩合吟の先導
諫山星陽大会副部長



開会のことば
高木仁陽大会本部長



諫山岳陽大会会長の挨拶

当日の入賞者は次の通り。

◆幼少年の部

- 池田 夏音(太宰府慧陽会)
- 島原 桜都(岩戸佳陽会)
- 二宮 一斗(岩戸佳陽会)

◆新人賞

- 民門奈緒美(吟友弘陽会)
- 石井善五郎(小郡星陽会)
- 林 ヨン子(小郡星陽会)
- 名和登茂子(太宰府仁陽会)
- 森山 義幸(小郡星陽会)

◆奨励賞

- 黒岩みさ子(小郡星陽会)
- 高津 一枝(吟友康陽会)
- 高松 智川(小郡星陽会)
- 中垣 千月(香椎晴陽会)
- 植田ゆうの(小郡星陽会)
- 名和登茂子(太宰府仁陽会)
- 中野 香川(北野真陽会)
- 山崎 晴月(太宰府星陽会)
- 松浦 誠月(岩戸昇陽会)
- 中村 美川(太宰府絃陽会)
- 泉田 千月(太宰府仁陽会)
- 江藤 徹月(太宰府恵陽会)

◆入賞

- 高山寺正子(睦幸陽会)
- 中川 礼川(太宰府仁陽会)

益永 時月(太宰府仁陽会)
城 桜月(太宰府星陽会)
平井 幹子(太宰府星陽会)
熊谷 紀川(太宰府星陽会)
安枝 昭月(太宰府星陽会)
石橋 敬川(小郡星陽会)
今泉 鶴月(太宰府君陽会)
田中 五川(岩戸扇陽会)
石崎 宝月(筑紫野観陽会)
松原 武月(筑紫野観陽会)
後藤 菜月(岩戸佳陽会)
野口 剛生(愛宕西陽会)
芳澤 佳川(笙陽会)
今村 利月(太宰府啓陽会)
石橋 舟川(吟友忠陽会)
池田 莉月(太宰府慧陽会)
池田 華月(太宰府慧陽会)
八尋 信月(筑紫野学陽会)
立石 昌月(岩戸昇陽会)
桑野 勝月(太宰府啓陽会)
名和登茂子(太宰府仁陽会)
奥山 静月(岩戸扇陽会)
中島 泰川(吟友光陽会)



幼少年の部 池田夏音さん



閉会の言葉 鳥井幸陽大会顧問



特別奨励賞受賞の皆さん



二宮一斗さん

春季大会

(第一部開催)

最優秀吟士権者に土屋綾峰さん

本会第五十九回春季吟詠大会が、四月二十四日(日)プラム・カルコア「多目的ホール」で開催された。

この大会は、去る三月二十一日(日)実施された第一部入賞者と奥伝・皆伝者による競吟大会と位置付けられたものです。会員の吟詠表現力向上を目的として、始められ、これまで五十九年間に亘り営々と続けられています。

本日の大会は二一般の部と吟士権者の部の二部門に分けて実施された。

吟士権者の部では、土屋綾峰さんが最優秀吟士権者に選ばれた。



最優秀吟士権の土屋綾峰さん



最優秀賞の今村さん

大会式典で大会会長として挨拶に立った諫山宗家は「この大会は、会員の吟詠力向上のために、一回でも多くの舞台を踏んで貰いたいと開始されたものです。私は第一回目の大会から出吟しましたが、この舞台に立つ為に、努力精進したお陰で今の私があると言っても過言ではありません。」

一回の舞台は百回の練習に勝るとも言われます。この言葉は、舞台に立つ為には、それなりの努力精進が必要であり、当日の結果に拘ることなく、日頃の精進の大切さを説いたものです。

次には、和歌朗詠大会を控えています。和歌と詩吟は車の両輪です。積極的に挑戦していただきたい。」と述べました。



諫山大会会長の挨拶

◆当日の成績は、次の通り。
◆吟士権の部
●最優秀吟士権
土屋綾峰(北野督陽会)

○準吟士権

郷原菊峰(岩戸征陽会)

○第三位入賞

杉谷玲峰(香椎了陽会)

●一般の部

○最優秀賞

今村利月(太宰府啓陽会)

○優秀賞

石橋舟川(吟友忠陽会)

池田華月(太宰府慧陽会)

福山博峰(香椎晴陽会)

富永延峰(太宰府奏陽会)

蒲池勝峰(太宰府星陽会)

○優良賞

池田華月(太宰府慧陽会)

宗 國山(太宰府星陽会)

平井幹子(小郡星陽会)

- 溝口静峰(岩戸征陽会)
- 栗栖紘峰(雅陽会)
- 安枝昭月(太宰府星陽会)
- 内野青峰(筑紫野観陽会)
- 泉田千月(太宰府仁陽会)
- 名和登茂子(太宰府仁陽会)
- 田中煌峰(太宰府燦陽会)
- 古賀箔峰(岩戸扇陽会)
- 山崎晴月(太宰府星陽会)
- 田中五川(岩戸扇陽会)
- 中垣千月(香椎晴陽会)
- 黒岩みさ子(小郡星陽会)
- 石橋宝月(筑紫野観陽会)
- 松浦誠月(岩戸昇陽会)
- 首藤伸峰(岩戸佳陽会)
- 波多紀山(吟友宝陽会)
- 野口剛生(愛宕西陽会)
- 恵内瑞山(雅陽会)
- 船越薫山(太宰府星陽会)
- 中山秀山(雅陽会)
- 萱嶋功峰(太宰府星陽会)
- 松原武月(筑紫野観陽会)
- 江藤徹月(太宰府恵陽会)
- 小野律山(太宰府啓陽会)
- 久我節峰(岩戸扇陽会)
- 今泉鶴月(太宰府君陽会)
- 八尋信月(筑紫野学陽会)
- 熊谷紀川(小郡星陽会)
- 野村正峰(笙陽会)
- 石橋敬川(小郡星陽会)
- 増永時月(太宰府仁陽会)
- 平田直峰(香椎晴陽会)
- 蒲池香山(太宰府星陽会)
- 高山寺正子(睦幸陽会)

◆特別奨励賞

- 溝口静峰(岩戸征陽会)
- 長澤竹山(吟友宝陽会)
- 白石承峰(吟友光陽会)
- 柴田康峰(岩戸扇陽会)



喜びの優秀賞受賞者



閉会のことば鳥井顧問

九州吟剣詩舞道連盟(諫山岳陽理事長)主催、春季吟詠大会が、開催された。

福岡予選

九州吟剣詩舞道連盟(諫山岳陽理事長)主催、春季吟詠大会が、開催された。

福岡大会は、八十回の節目の大会として、去る二月二十三日(天皇誕生日)に、プラムカールコア太宰府多目的ホールで実施された。



開会のことば 川原先生

大会は、川原南岳大会総務の開会の言葉で幕を開け続いて、諏訪扇翠大会総務の誘導で九吟連会詩を合吟した。

松永秀岳大会総務の吟詠上の注意の後、早速、小学生の部から、吟詠を発表した。

その後、各部門の吟士が日頃の練習の成果を力いっぱい披露した。



青年の部入賞の池田華月さん



青年の部入賞の池田華月さん

閉会行事では、諫山岳陽大会会長が挨拶に立ち、『新型コロナウイルス大流行の中、あらゆる英知と工夫により、大会が続けられることに感謝と御礼を申し上げます。』

私達は、松口月城先生や深田光霊先生らの錚々たる先人が提唱して設立されたこの連盟を皆で守り、次の世代に継承する義務と責任を背負っています。

この春季大会と本選大会として秋の親睦大会を成功させることが、大へん重要です。当連盟の中心的立場にある福岡地区本部を維持拡大する為に、皆様のご協力を期待しています」と述べました。



大会会長挨拶の諫山理事長

最後に原國龍大会総務が開会の言葉を述べ大会を締めくくった。



閉会のことば 原先生

当日の福岡大会の入賞者は次の通り。

◆小学生の部
◎入 賞Ⅱ池田夏音(太宰府慧陽会)

◆青年の部

◎入 賞Ⅱ池田彩花(華月)(太宰府慧陽会)

◆熟年の部

◎入 賞Ⅱ廣橋英子(岬陽師範代)・倉内恵子(京陽師範代)・中島慶子(光陽宗師範)

◆高年の2部

◎入 賞Ⅱ森本賢策(賢陽師範代)・安永奈智子(香椎了陽会)・吉弘勝幸(翔陽宗師範)・安枝昭雄(太宰府星陽会)・蒲池勝洋(太宰府星陽会)・梶原玲子(翠陽師範代)・白石美恵子(湊陽師範代)・岸明子(凜陽宗師範)・林谷典子(典陽師範代)・萱嶋紀代(太宰府星陽会)・八尋征子(征陽師範)・山田豊子(啓陽宗師範)・後藤ひろみ(佳陽宗師範)・白石眞一(吟友光陽会)・檜崎忠吾(忠陽総師範)・原野保之(英陽会)・森田ヒロ子(弘陽師範代)・白石紀子(吟友宝陽会)・波多紀子(吟友宝陽会)・萱嶋功一(太宰府星陽会)・古賀富士子(富陽師範)・原信之(太宰府星陽会)・宗國弘(太宰府星陽会)・菅野吉也(香椎晴陽会)・溝口静子(岩戸征陽会)・橋口満智代(康陽総師範)・有岡キヌ子(絃陽宗師範)

◆高年の1部

◎入 賞Ⅱ沖さち子(太宰府絃陽会)・杉谷玲子(香椎了陽会)・森田睦子(綾陽総師範)・松岡幸子(葵陽師範代)・小野律子(太宰府啓陽会)・柴田廣隆(勘陽師範)・福山博(香椎晴陽会)・山口真理子(太宰府連陽会)・河原田和子(和陽宗師範)・矢野恵美子(葦陽師範代)・石橋忠夫(吟友明陽会)・上月照代(岩戸扇陽会)・竹内由美恵(香椎晴陽会)・城一枝(太宰府星陽会)・古賀博子(岩戸扇陽会)・久我節子(岩戸扇陽会)・稲毛幸栄(紅陽師範代)・郷原菊代(岩戸征陽会)

◆和歌の部

◎入 賞Ⅱ廣橋英子(岬陽師範代)・中島慶子(光陽宗師範)・森田睦子(綾陽総師範)・小野律子(太宰府啓陽会)・松岡幸子(葵陽師範代)・柴田廣隆(勘陽師範)・

矢野恵美子(董陽師範代)・河原田和子(和陽宗師範)・久我節子(岩戸扇陽会)・城一枝(太宰府星陽会)・郷原菊代(岩戸征陽会)・蒲池勝洋(太宰府星陽会)・吉弘勝幸(翔陽宗師範)・梶原玲子(翠陽師範代)・萱嶋紀代(太宰府星陽会)・林谷典子(典陽師範代)・八尋征子(征陽師範)・山田豊子(啓陽宗師範)・橋口満智代(康陽師範)・橋口満智代(康陽師範)

◎奨励賞Ⅱ古賀博子(岩戸扇陽会)・浦池恵子(太宰府星陽会)・森本賢策(賢陽師範代)・北川英昭(英陽宗師範)・岸明子(凜陽宗師範)・萱嶋功一(太宰府星陽会)・古賀富士子(富陽師範)・原信之(太宰府星陽会)・溝口静子(岩戸征陽会)

筑後予選

九吟連筑後予選大会は、去る三月二十一日(春分の日)、基山町民会館「小ホール」で実施された。

当日の筑後大会の入賞者は次の通り。

◆高年の2部

◎入賞Ⅱ中山秀子(雅陽会)・恵内慧瑞子(雅陽会)

本田鈴子(雅陽宗師範)・河村光晴(愛宕西陽会)・田中祐助(観陽宗師範)・前田和宏(学陽師範)・森和教(令陽支部師範代)・近藤晴子(晴陽宗師範)・吉村孔志(孔陽支部師範代)・江藤利幸(炎陽指導師範代)・篠原功(愛宕西陽会)

◎奨励賞Ⅱ坂本敬子(雅陽会)

◆高年の1部

◎入賞Ⅱ恵内隆(隆陽指導師範代)・榎原美智子(智陽指導師範代)・米倉吉信(小郡聡陽会)・田中了子(了陽宗師範)・古賀誠一(西陽宗師範)

◆和歌の部

◎入賞Ⅱ恵内隆(隆陽支部師範代)・柴田重徳(雅陽会)・栗栖ひろ子(雅陽会)・矢津田ます子(煌陽指導師範代)・田中了子(了陽宗師範代)・古賀誠一(西陽宗師範)・本田鈴子(雅陽宗師範)・河村光晴(愛宕西陽会)・前田和宏(学陽師範)・森和教(令陽支部師範代)・近藤晴子(時陽宗師範)・江藤利幸(炎陽指導師範代)

◎奨励賞Ⅱ田中祐助(観陽宗師範)・篠原功(愛宕西陽会)



新型コロナウイルスの蔓延の影響は、私達の生活のあらゆるところに及んでいます。

特に、吟詠を楽しんでいる者にとつて、心身共に悪影響を及ぼしていることは皆様が実感されていることでしょう。

今年に入ってから、新聞やテレビで、「声」についての報道がなされています。

特に大きく取り上げられてるのが、高齢者のみならず、誤嚥の事故が多発していて、ノドの筋肉と「声」との関連が取り沙汰されています。

山王病院東京ボイスセンター長の渡邊雄介先生によると、人との会話が減ると様々なリスクが高まると、「警鐘」を鳴らしておられます。

つまり、「のどの衰えは、全身の不調を招く」と強調されています。その一部をご紹介します。少しでもお役に立てば、幸いです。

先生の話によると、「人は声を出す時に、のどの声

帯を使います。その声帯は筋肉で出来ています。

体の筋肉と同じように、声帯は30代から衰え始め、50代後半からは、衰えるスピードが加速します。

その上、会話をする機会が減ると、のどを使う頻度が減り、衰えるスピードは更に加速します。

寝たきりになると、みるみる全身の筋肉が落ちるのと同じで、のども毎日使わなければ、通常以上のスピードで衰えます。

コロナ以降、私達は「やれ大きな声を出すな!! やれ黙って食べろ!!」等声を出すことがまるでコロナ流行の元凶のように言われてきました。

渡邊先生は、声を出さない場合、次のような影響を指摘されています。

(1) 誤嚥のリスクが高まる。

声帯には、食べ物が肺に入らないようにするシャッターの役割があります。声帯が衰えると、シャッターの開閉がうまく出来なくなり、肺の方に食べ物が入る…つまり、誤嚥が発声してしまいます。ひどい場合は、肺炎を併発し、死に関わる

ことも…。誤嚥のリスクは、高齢者程高まってきます。

(2) 声が老ける。

声域が狭くなった、大きな声が出せなくなった、声がかすれる…。これはすべて声帯が衰えたせいです。

(3) 力が入らなくなる。

とつとつに力が出ないつまずきやすくなる…。そんな方は、のどに原因がある可能性が有ります。声帯がしっかりと閉まらなると、全身に力を入れられなくなるからです。年齢を重ねて転倒が増えるのは、体の筋肉の衰えだけでなく、のどの衰えも原因です。

私達は、吟詠を通じて、のどの筋肉を鍛えています。

私達の周囲には、詩吟は難しいと言ってお誘いを拒む方が多いようですが、のどを鍛えることの大切さを前面に、吟友勧誘を行うことが効果的ではないでしょうか。コロナ騒動を「チャンス」に生かしましょう!!



福岡県吟詠詩舞連盟
第三十九回コンクール大会

久保山宗師範が第三位入賞!!
中島光陽宗師範
橋口康陽総師範も入賞。

福岡県吟詠詩舞連盟(西山啓峰理事長)主催第39回コンクール大会が、去る三月十三日(日)福岡市早良市民センターで開催された。

当日の大会には、福岡県・福岡市、日本吟詠総連盟等の後援を受けて実施された。

大会は、加藤鳳山大会副会長の開会のことばで開始された。その後、立石松翠大会総務が審査員を紹介、競吟上の注意を発表した。



注意事項を述べる立石大会総務



加藤大会副会長の開会の言葉

吟詠の発表は合吟の部から始められ、続いて独吟が次々と発表された。
式典では、西山啓峰理事長が大会会長挨拶を述べた。



挨拶中の西山理事長



上位入賞者の記念写真(左、久保山宗師範)

前回優秀者範吟に続き成績発表と表彰が行われた。



左から久保山、橋口、中島各先生

愛吟家必読!!

「コロナ禍中の健康法」



新型コロナウイルスの感染が発生してほぼ三年が過ぎた。当初は、未知の病原菌の蔓延にどうして良いか解らないまま、不安ばかりが募るばかりでした。

特に、高齢者は感染のリスクが高いので、不要不急な外出を止め、自宅から出ないようにとの要請がありました。吟詠をはじめ、各種文化活動が「不要不急」であるかのような報道もあり、活動が抑制され、私達は大きな影響を受けました。

現在、若干感染者数が減少傾向にありますが、油断は禁物です。

そこで、このような時節だからこそ、来る吟春に備えて健康管理を行いたいものです。

一般的な健康法として、よく語られ、見かけるのは江戸時代中期の俳人、横井也右の考えた「四文字熟語」の「健康十訓」が有名です。

いわゆる「①少肉多菜②少塩多酢③少糖多果④少食多菌⑤少衣多浴⑥少言多行⑦少欲多施⑧少憂多眠⑨少車多歩⑩少怒多笑」がそれで、ご存知の方も多いことでしょう。

素晴らしい訓戒ですが、いざ実行するとなると、なかなか難しいものです。

ここでは、よく耳にする「免疫力」について考えてみましょう。

「免疫」とは、体内で発声したガン細胞や外から侵入した細菌やウイルス等を常に監視し撃退する自己防衛システムのことです。

免疫の仕組みは実に精巧にできており、いくつもの免疫細胞が協調しあつて働いています。

もし免疫というシステムが体から無くなったら、私達は直ぐに何らかの病気に患ってしまうのです。

高齢者は、この免疫がどん

どん落ちて行く訳です。その結果、◎感染症にかかり易くなる◎アレルギー症状が生じやすくなる◎下痢や疲れ易くなる等の症状が出ることとなります。

では、免疫力を高めるためには、どうすれば良いでしょうか。

まず、[1]腸内環境を整える。免疫細胞の6割は腸にいるので、活性化できる食べ物や乳酸菌等善玉菌を増やす物を摂取することです。

[2]次に、体温を上げること。体温が1℃上がると免疫力が一時的に最大5〜6倍アップするとも言われます。その為には適度な運動、そして、入浴で身体を温める。思いっきり笑うことも体温アップに繋がるそうです。

[3]栄養バランスを大切に。特に発酵食品、玄米野菜中心の食生活を心がけましょう。

[4]最後にストレスの解消も免疫力アップに効果的です。



第七回八葉会

地吟で友情出演

剣詩舞同志八葉会総本部
 (河津義政会長)主催、第七回
 八葉会発表会が、去る三月六
 日(日)プラム・カルコア太宰府
 大ホールで開催された。



挨拶を述べる河津義政大会会長

今大会は、「八葉会」前身の
 「二人会」から数えれば、二十
 回目の節目の大会であった。
 本会からも諫山宗家以下
 地吟者、舞人、剣士を含めて二
 十名が出場した。
 吟詠剣詩舞の発表を前に
 河津大会会長が、「未曾有の
 災害に見舞われた「平成」か
 ら「令和」へと移り、早三年経
 ちました。又私達が住む地球
 は、温暖化に伴う異状気象や
 コロナウイルスの流行等、大き

な影響を受けています。

そのような状況の中で、よ
うやく「第七回八葉会」を開
催する運びとなりました。

これも偏に、各流各派の先
生方をはじめ、友情出演を頂
いた皆様のお陰と心から御礼
申し上げます。

今後も剣詩舞を楽しみなが
ら、精進を続けて参ります」
と、力強く挨拶されました。



長谷知明さんの剣舞



「松竹梅」の千代原莓花さん

舞台上方では将来の剣詩舞界
を担う幼少青年の堂々たる舞
に続き、華麗、且つ艶やかな詩
舞と勇壮な剣舞が続々と披露
された。



詩舞中の榎原静桃先生



内田玉虹先生の詩舞



地吟中の野村宗師の伴奏は原先生ご夫妻

フィナーレは、本会諫山宗家
の発声による万歳三唱を声高
らかにに行い、無事盛会裡に大
会を終了した。



各会会長の万歳三唱(中央が諫山岳陽宗家)



剣舞「城山」熱演の千代原陸人君



和歌「我が胸の」を舞う宮崎義都先生

行事予定表

◎令和4年

5月15日(日)毎日吟士権(本選)

5月29日(日)和歌朗詠大会

6月12日(日)天満宮杯(福岡)

6月26日(日)日総連九州大会

7月3日(日)ポリドール(九州山口)

8月28日(日)天満宮杯(決選)

9月13日(日)火 審査大会

9月25日(日)太宰府市吟連大会

10月2日(日)秋季吟詠大会

10月9日(日)日総連全国大会(東京)

10月10日(月)祝 ポリドール決選(大阪)

10月23日(日)県吟連春季大会

11月23日(水)祝

12月4日(日)日総連九州大会

◎令和5年

2月24日(金)九吟連福岡予選

3月21日(月)祝 春季大会(一部)

3月25日(土)毎日吟士権(福岡)

3月26日(日)毎日吟士権(福岡)

4月23日(日)春季大会(一部)予定

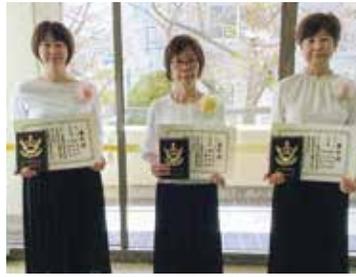
4月29日(土)祝 九吟連大会(予定)

5月14日(日)毎日日本選(予定)





五人の部 準吟士権の光陽会チーム



三人の部 準吟士権チーム (右)中島光陽宗師範

土屋綾子(北野督陽会)、
蒲池勝洋(太宰府星陽
会)・中内千鶴(太宰府恵
陽会)

○奨励賞Ⅱ古賀誠・田中丁
子・山田豊子・前田和宏・森
和教・植原美智子・林谷典
子・香月美穂・江藤利幸・郷
原菊代(岩戸征陽会)

よろこびの声

毎日吟士権合吟の部
三人の部 準吟士権 入賞

指導師範代 香月 穂陽

第四十四回毎日吟士権大
会、合吟三人の部で準吟士権
を頂き、大変光栄でした。中
島光陽先生のお教室から二組
が参加し、刺激を受けながら
練習し、そして何よりも同じ
教室のメンバーで構成された
三人組。

このコロナ禍に、公民館のご
好意で、時間延長の練習が出
来た事が、このような結果につ
ながったと思います。

中島先生、小路糸山さんの
三人と合吟を始めて三年程に
なります。

今回は特に、三人組は七
本、五人組は六本と、同じ吟
題で異なる本数の出吟で、音
程を取るのが下手な私には大
変でした。が、抜群の音程感の
小路さんと、最後は「最後は
香月さんに合わせるからね」
と言って下さる中島先生、お
二人に支えながら、「その時の
ベストを尽す」を合言葉に舞
台に立たせてもらっています。
中島先生、今後とも、ご指
導よろしくお願いいたします。
ありがとうございます。

毎日吟士権合吟の部
五人の部 準吟士権 入賞

指導師範代 倉内 京陽

昨年、吟友光陽会から、香
月穂陽、稲毛紅陽、白石湊陽、
倉内京陽の四人が、指導師範
代に昇格させて頂きました。

内心不安だらけでしたが、
四人一緒だったら頑張れるし、
精進して参りました。

私達四人と中島光陽先生
の五人で合吟に出ることにな
り、毎日教室で、目一杯声を
張って練習を重ねて来まし
た。コロナ禍で練習が制限さ
れる事もある中、公民館の教
室で練習を継続出来た事も
幸いでした。

この度、毎日吟士権大会の
合吟五人の部で、準吟士権を
頂き、大変嬉しく思います。
これも、教室で一生懸命ご指導
頂いた、中島光陽先生と、教
室のお仲間の皆様のお陰と、
感謝しております。

これからも、合吟は勿論独
吟も頑張つて挑戦していきたく
いと思っております。

最後に、微力ですが本会の
発展の為に尽力して参りま
す。ご指導よろしくお願い致
します。

「漢詩と諺」

シリーズ

No.12

七歩の才

私達は、来年春季大会の課
題吟の一つに、曹植作の五言
絶句「七歩の詩」を勉強して
います。

三国時代の魏王、曹操亡き
あと、兄の文帝、曹丕にその
才能を妬まれた、曹植は、兄
からむごい仕打ちを受け続
けました。

兄曹丕も文人として優れ
た詩才の持ち主として知ら
れていました。

ある時、「七歩歩く間に詩
を作れ、詩題は「兄弟」とす
る、但し、詩文の中に「兄弟」
の文字は使用してはならな
い」と難題を突き付け、「もし
出来なければ死罪にする」と
命じました。

曹植は、兄を「其」に、自分
を「豆」に譬え、次の詩を賦し
ました。

「七歩の詩」

豆は 釜中に在って 泣く
豆を煮るに 豆其を 燃く

豆からは、釜の下で激しく
燃え、豆は釜の中で泣いてい
ます。

もとはと言えば、同じ血を
分けた兄弟ではありません
か。どうして、そんなに苦し
めるのですかと訴えました。

兄曹丕は、深く恥じ入り
許してやりました。

この逸話から「詩を作る才
能が非常に早く、優れている」
つまり「七歩の才」と言う諺
が生まれました。

もう一つ、曹丕にはその詩
才を称賛する「八斗の才」と
いう諺にも採用されていま
す。ある学者が、「天下の詩
才の全体を一石(十斗)とす
ると、その中の八斗は曹植が
受け持っている」と褒め称え
ています。

いかに曹植が、卓越した詩
人であったかを彷彿とさせる
二つの諺です。

味のある吟詠の提案 [3]

正しい発声法を身につけよう!!

あなたの声はもつと

いい声のはずです。

作曲家で邦楽演奏家でもあった船川利夫先生が吟界に寄せられた「味のある吟詠への提案」をご紹介します。第二回目のテーマは、「正しい発声」についてのアドバイスです。

『吟詠は、日本の言葉の音楽的表現です。そして吟詠ほど、日本の言葉を大切にしている芸能は、ほかにありません。従って、国家的な立場からしても、極めて大切な音楽です。吟詠家の皆さんが、もつと高度な発声法を学びとりこれを応用して行けば、吟詠の芸能性は一段と高度になり、他の芸術分野にも、よりよい影響を与え、結果として、吟詠自身の地位の向上が実現出来ると思います。』

その音楽性の向上の為に、ちゃんとした邦楽の発声法を身につけることが大切で「と強調され、次のような提言を述べられています。

一般に「名人上手」と言われている人は、正しい発声法を実行しています。

だからこそ、会場いっぱいによく響く美しい声となって表われます。

間違った発声法、無理な発声法で自分の声を殺してしまような発声法では、客席の陽々まで同等に大きく響くという声ではないのです。

どんな素材でも

こなせる発声を!!

「吟詠は、詩歌を吟じて、精神を磨くものである。だから、作者の意図をよく理解し、詩の心を的確に把握しなければならぬ」とよく言われます。

しかし、精神的なものだけを至上とし、音楽的なものを軽視しては、吟詠の芸術的向上は望めません。

昔は、悲憤慷慨型の詩や軍旅の詩が好んで吟じられましたが、現在は、美しい風景や愛を表現した詩も沢山吟じられるようになりました。

このような詩は、ただガナると言う声の出し方ではとてもその詩心は表現出来ません。

又、最近は、和歌や新体詩も多く題材に選ばれていますが、

音程についても同様、自分に合った音程、自分のキャラクターに合った音程で吟じることが不可欠です。

邦楽の中で、立派な声が出るのは吟詠家と謡曲をやる人ぐらいのものとされていています。

正しい発声法を体得する為には、まず、今の自分の声の「現実」を知っておく必要があります。

冷静に自分の声を診断することも、発声の欠点を直していく上で大切なことです。

短所をなくし、

長所を伸ばそう!!

「あなたの声は美しいですか」

音楽的に美しい声とは素直に流れる声、鮮明度の高い声を意味します。

美しくない声とは、素直に流れない声です。又、だみ声、鼻がかりの声、なまっただ声等もいい声とは言えません。

「あなたの声はよく響きますか」

か」
音を出す時は、人の体の全てが楽器となります。

つまり、ボディが共振ボックスになる訳で、この共振の度合いが強いとよく響く声になります。

「あなたの声は音程がしっかりしていますか」
音程がしっかりと一定していると、音声は自ら美しく響きます。

「高い音、低い音が両方共よく出ますか」
高、低ともに滑らかでないと、美しくありません。

高音のかすれや、裏声更に低音が十分に響いているかを確かめて下さい。

「あなたの吟声には情感がこもっていますか」

吟詠は、別の言葉で言えば、詩の情感を音楽的に伝えるものです。

勇ましい詩句は勇ましい、そして又、悲しい詩句は悲しい情感がこもっている必要があります。

あなたの吟声には、そうした情感が十分にこもっていますか。一本調子ではありませんか。

十分に情感に富んでいるか、

それとも単調か、もう一度、自分の声をじっくりと聞き直してみして下さい。

あなたの声の自己診断は済んだことと思います。

自分の音声の長所と短所をつかめたら、次の課程に進んで行くことが出来ます。

改良したい点をしっかりと頭の中に入れた方は、これから大いに飛躍する道が開かれています。

ここで考えみて下さい。皆さんは、色々な舞台で吟詠を発表、披露する際、自分の声の質に合ったものを選んでいきますか。

自分が好きな吟題とあなたに合った、つまり、あなたに似合う吟題は別なものです。特に男性向き、女性向きの吟題選びにも心を配って欲しいものです。

次回から、正しい姿勢や正しい呼吸法等、正しい発声法に役立つアドバイスを述べて見たいと思います。



新婚当時の思い出

シリーズ 13

宗師範 田中 了陽

夫が二十六、私が二十四の時、住吉神社で式をあげました。早いもので、来年の三月四日には、結婚して五十年の金婚式を迎えます。

お互いの家が親戚関係であり、両方の親も安心したのか、私の知らないところで話がどんどん進み、二・三回二人で遊びに行つたくらいで、半年もしないうちの結婚でした。

新婚時代は、夫の母が再婚し、別所帯でしたので、まだ元氣だった八十と七十六の祖父母と、ひとつ屋根の下で暮らす事になりました。祖父は三年後に亡くなりましたが、祖母



は心臓が少し悪いけれど、とても元氣な人で、また町内でも評判の口うるさい人でした。

挨拶の仕方、町内の行事、服装など、こまかく注意されました。当時は、それがいやで、泣いた記憶もありましたが、今自分が、祖母の歳に近くなつた時、言われた言葉が思い出され、本当に私の事を思つて言ってくれていたのだと、今では祖母に感謝しています。

夫は愛情表現が下手で無口な人ですが、陰では私の事を氣にかけてくれていたようです。祖母に内緒で詩吟を習い始めても何も言わず許してくれていました。それは不器用な夫流のやさしさだと思ひ

ます。

子供二人、孫六人、幸せな生活が送られているのは夫が大きな氣持で家族を支えてくれているからだと思ひます。

残された人生、お互いに健康で仲よく暮らしていけたらなあと、心から思う、今日この頃です。

私の秘伝料理

シリーズ 22



鶏だんごのトマトソース

指導師範代 船木 涼陽

トマトの水煮缶を買い置きして、定番メニューとしてよく作る「鶏だんごのトマトソース」を、ご紹介します。

玉ねぎ(一玉をくし切りに)しめじひとつかみ、後は季節の野菜やきのこ類をさくさく切つて、オリーブ油で炒めます。寒い季節だと南瓜やさつまいりやキャベツ。夏には茄子やズッキーニなど、何でもOKです。野菜に軽く火が通つたらトマトの水煮一缶を加えて弱火で煮込みます。こくを出すために砂糖を大さじ一杯加えて、

スパイスはバジルかオレガノ。暑い季節にはチリペッパーやガラムマサラで辛く仕上げるのもおいしいです。

さて鶏だんごです。若どりのミンチと親どりの相ミンチを二五〇gずつ軽く塩こししようして、よく混ぜ合わせます。別鍋でお湯をわかしてスープの素を加えます。(茅乃舎の野菜だしがおすす)そこにとり肉を丸めながら落とし、表面が固まつてきたらスープごとトマトの鍋をそつと移します。トリ肉に火が通つたら塩で味をととのえて出来上り。二日目、少し残つて煮詰まつたものを、オムレツのソースにした写真があつたので、ご紹介しました。アレンジも色々出来ます。

鶏だんごにえのき首(5mm位に刻んで)か、水切りした豆腐すりおろした蓮根などを加えて食感の変化や、かさ増し。仕上げに水煮のミックスビーンズを加えてホリユームアップなど。



華道20年吟道6年

大宰府星陽会 平嶋 和山

花が好きで始めた生け花で、最初は池の坊でしたが草月流を学んで、二十年になります。

月に二回、本道寺公民館でお友達五人で習っています。すぐにおさらいを兼ねて同じ花材を水盤に生けます。

季節の花を花屋さんに準備して頂きますので、楽しみにしています。

部屋に飾ると、室内が一気に明るくなり、心も癒されます。吟詠教室も諫山星陽先生に入門して、約六年になりましたが、こちらの方は、なかなか上達するのが難しく苦労しています。

声だけは「美しい吟声が出るようになりましたね」と褒められていますが、先生の期待に添えるのは、いつになることやら……。

毎週水曜日の練習が待ち遠しく、皆さんと楽しみながら頑張つています。華道と吟道を両立して、これからも、更に上達したいと思ひています。



草月流・「季節の盛り花」

孝子弥四郎考

私達は、漢詩、和歌、短歌のほか、今様、筑前今様を学び、朗詠しています。

その今様集の中に、黒田藩第十代藩主黒田斉清が作った次の筑前今様があります。

「夜須の朝日の 弥四郎は 親に孝行 尽くしつ つ 牛馬に鞭を 当てざれば 受け持ちの田は 作り取り」

黒田斉清は、自ら今様を作詩すると同時に、亀井南溟の門下生の二川相近を重用し、筑前地方に多数存在する今様を纏めさせました。

又、斉清は、藩内の親孝行者を褒章し、その代表的孝子弥四郎に、納税を免除しました。

夜須の朝日村に住む弥四郎は、生れつき正直で、気だても優しく、大層働き者でした。

朝は、暗いうちから起きて働き、又、飼っていた牛にも、鞭ひとつ当てないばかりか、まるで人にでも物を言うように、「本当に有難い、お前さんのおかげで仕事もすっきり片付い

た」とか「さあ、くたびれたじゃろ。ゆつくりと休んでくれや」等と話しかけたそうです。

又、弥四郎の親孝行ぶりは、村でも評判で、毎晩親が寝る前には冷えたふとんを自分の体で温め、母親が病気の時も、寝ずの看病をして、一心に孝養を尽しました。

狭心道で人に会えば、直ぐに道を譲り、落し物を拾えば落とし主が見つかるまで探し歩きました。

とにかく何をすることも、まづ人の為を考える欲のない男でした。

こうした噂は、斉清公の耳に伝わり、文政五年正月三日、福岡城に召し出された弥四郎は、「抱田三反一畝十歩(約三千平方メートル)を生涯作り取り(年貢を納めなくてよいこと)にせよ」という御沙汰書(おさだめがき)と、青銅五百文というごほうびを涙を流して受け取りました。弥四郎は、貰ったお金を神社やお寺に奉納した上、貧しい人に分け与えました。



孝子弥四郎の墓



黒田斉清作筑前今様石碑

行いは、村人達に語り伝えられ、昭和三年十一月には、弥四郎が耕作していた田の一部に顕彰記念碑が建立されました。

現代の物質文明の下、拝金主義が蔓延る今、ややもすれば、私達が失い勝ちで忘れ勝ちな、優しさ、温かさ、そして親に感謝し、孝養を尽くす心を、もう一度考え直す為にも、機会があれば一度、弥四郎のお墓と歌碑を訪ねてみようでは、ありませんか。



黒田斉清公画像

亀井神道流西日本吟詠会 ホームページご紹介 ホームページアドレス https://kameigin.com/ [QR code]

本会会報「吟友」が、今号で「80号」を数えた。 昭和六十三年一月一日の初号発行で、実に三十四年間に亘って発行を継続して来ました。正に昭和末から平成、そして令和の私達の活動の歴史が刻まれた貴重な会史の一つであります。

▼初号をひも解いて見ると 太宰府天満宮前宮司で本会現最高顧問の西高辻信良様や日本吟道奉賛会東京地方本部長で後の本会第二世宗家廣澤尚陽先生並びに、日本吟道奉賛会福岡地方本部長の瀬川東行先生等から、新年のご挨拶を兼ねて祝辞をお寄せいただいています。 特に第1号以来、三十四年間で、毎回新年号に温かいご祝辞を頂戴した西高辻信良様に心から感謝と御礼を申し上げます。 ▼吟界は、今未曾有の危機に直面しています、会員の為の広報誌として、益々大切なツールとして、「吟友」の発行を続けて参ります。ご協力をお願いいたします。 (岳)

幼、少女時代の思い出

常任顧問・宗伝 鳥井 幸陽



五月に誕生を迎える私九十六才になる。四人兄弟の中で一人っ子だった母は里の父が亡くなる

が忙しかった私は末っ子で幼い頃は何時も父の膝の上だった。一人っ子だった母は里の父が亡くなる

私はその祖母が大好きで父が忙しい時は祖母の膝の上によく病氣した。かかりつけの医者とは連絡すると、すぐかけつけて下さった。従兄達は「幸ちゃんはお医者さんと親戚だったらしいの」と言っていた。

小学一年生になると男の子から「骨皮筋工門」とよく言われたが、私は平気だった、実際にそうだったから…。

朝礼は一週に一度小運動場で行われた。全校生徒級毎に二列に並ぶ、太陽の下で長く立つことの出来ない私はよく倒れた。「倒れる前にしゃがみなさい」と先生に言われ、しゃがんでいて木陰に連れて行って呉れた。体育の時間は見学が多かった。骨折したら大変と思われたのでしよう。鉄棒、飛び箱、走

り高飛等は全然させてもらえない。かけこは後から押されるところで転ぶ。然し身の軽い私はお転婆で木登り、ゴム飛び等々は負けない。気の強さもあつた。その気の強さも病には勝てない。授業中に気分が悪くなり医務室で寝かせられた。二度や二度ではない。学校を休みたくない判らなくなるといつて家を出る。或る日友達に送られ家に着くなり「どっ」と倒れた。頭に当たった母はすぐ寝かせた父が帰ってくるなり母を叱っている様子が違う。すぐ医者をお医者「何時もと違う、すごく心臓が弱っている叔母がこの子は足を引きつって帰ってきたその言葉によって足裏の傷が破傷風となっていた。大手術、長期欠席、然し私は一週間後にはリヤカーに乗って学校に通い出した。四十日間、父や友達に支えられて六年生になると入学試験の勉強に入ると入学試験の勉強はしていた。然し父は受験させなかつた。体の弱い子が混み合う電車通学は無理だと…。そういう父は遠足、修学旅行等給

て付添っていた。大勢の生徒を預けられる先生に「娘一人の為に先生に負担をかけては申訳けない」と父は離れて見守っていた。そういう父に幼い頃、私は膝の上で「このご飯になるお米は、お魚は、お肉は誰が作った。このお野菜は…。見ず知らずの多くの人が育て運んでくださつた。それぞれお肉、お魚、野菜でも命がある。その命を私達は頂いている「頂きます」「ご馳走さま」この言葉が感謝の心である。又食器、テーブルこの家等々どれだけ多くの人々の智慧、労働のお陰で生かされている。有難いよなと幼い頃はそれなりの言葉。成長するに従って人としての道を納得のいくように語りかけて呉れた。そういう父は悪さをした兄達は父から叱られてはいたが手を当てたことはない。厳格者といわれていた父は「どの子も預って育てている私である」。大切に育てなければならぬ。父の言葉は忘れぬ。母は優しくかつた。家伝の薬を作る忙しい中、子ども達が健康であつて欲しいと言いながら、新聞や雑誌の料理番組は切り抜き手作りの帳面を作っていた。又母の里はお菓子の問屋だったとかでおやつも工夫して作つて呉れた。そうし

た母の姿を見て育つた私に母は一度も手伝いなさいと言つたことがない。預り者と父が言っていた。弱い子の私は特に大切にされてきたからだろうか私は判らない。母は私がだんだん成長してくるとお母さんがしていることをじつと見て頭の中にしつかり入れなさい。料理中に味見をしているのは美味しく出来ているだろうかと思う心で作っている。料理になれてくると手加減で覚える。醤油や砂糖を二変にどつと入れないことと言いつつ次々と料理を仕上げている。テーブルの上には、骨がしつかりなるようにと言つて、チリメンジャコやいりこ等が常のついていた。今思うと両親は如何に大切に育てて呉れたか。一番手のかかつた私が今日迄生き長らえるとは親兄弟誰も思つてはいなかったらう。大切に育ててくださったお父さん、お母さん有難うございます。私も自己管理しながら生命を大切に、腹から出す詩吟にも声も出なかつた時もあきらめず続けさせて頂きました。親、兄弟よりも長生きさせて頂いた私。もう少し長生きさせてください。長男が元気になる迄、私が必要ですと仏壇に向つて合掌しながら、亡き主人にも語りかけるこの頃です。

第48回全国太宰府天満宮吟詠剣舞奉納大会開催

去る四月十七日、日本吟道奉賛会全国奉納大会(野村聡陽福岡地方本部長が太宰府館まほろばホールで開催された。



挨拶中の野村本部長

太宰府天満宮御本殿での奉納行事では祝詞に続き「奉納者名簿」を奉奠。昨年に続き道真公作「九月十日」の大合吟奉納は新型コロナの影響で見送られました。奉納行事終了後、太宰府館まほろばホールで吟詠剣舞の奉納を行い、式典では、総本部副会長で福岡地方本部長の野村聡陽先生の挨拶に続き、ご来賓と臨席いただきました、太宰府天満宮、西原強彌宜様から祝辞を頂戴しました。



祝辞の西原彌宜様

本会から総本部常任顧問の諫山宗家ら多数参列し、奉納大会は無事終了した。



男性指導者による合吟



太宰府地区指導者合吟



本会の田中義瑞先生剣舞



吟友グループ合吟



女性指導者合吟



那珂川地区指導者合吟

- ◎ 優勝Ⅱ 西村正美 (啓峰吟詠会)
- ◎ 準優勝Ⅱ 宮本淳一郎 (岩戸昇陽会)
- ◎ 第三位Ⅱ 渡邊正義(同)
- ◎ 第四位Ⅱ 藤浪重憲(同)
- ◎ 第十位Ⅱ 古賀誠(宗師範)

当日の優勝者、西村正美さんには、西山啓峰県吟連理事長より優勝杯が贈呈された。西日本吟詠会関係者では岩戸昇陽会の宮本淳一郎さんの準優秀を筆頭に、第三位に渡邊正義さん、第四位に藤浪重憲さんがそれぞれ上位入賞を果たした。



参加者による記念集合写真

福岡県吟詠剣詩舞連盟主催第36回ゴルフコンペが、四月十九日(火)二丈カントリークラブで開催された。

第36回
県吟連 ゴルフコンペ

当日の上位入賞者は、次の通り。

千歳在住の時、吟道会から、文化祭で茶道吟を発表したいとの要望があり、私のお茶の師匠にご相談して若い三人のお弟子さんにお任せ頂きました。

結婚前の二年間は、兄弟が実家を離れ父母と三人暮りでした。何度か父が尺八、母がお琴、茶音頭を奏で、私はあり合わせのお道具でお茶を点で楽しんだ事がありました。ゆったりとした時の流れが懐かしい。この二年間は早く過ぎ去りました。

太宰府仁陽会 名和 登茂子
茶道を始めたきっかけは叔母のお茶飯みにおいてでした。叔母の手解きを受け主人の転勤で再び、福岡で指導を受ける様になり、まるで親子の様に楽しみました。お陰でこの道六十年余りになり、数々の思い出があります。

思い出



優勝の西村さんと西山理事長(右)



茶道裏千家正教授 名和 宗茂

ご縁があつて吟詠会に入会させていただき感謝申し上げます。

永年続けた事によって、沢山の経験をさせて頂きました。これを機に社会に貢献出来る様努力したいと思っています。

この度は、学校茶道永年勤続者表彰式に全国から五九名が出席、白寿になられた大匠様より、感謝状をお手渡し戴きこの上ない感激でございます。

双方共初めての挑戦で、合わせるが大変でした。主人と私が二人三脚でのプロデュース、緞帳が上がる時総礼、下がる時吟者共に総礼したのがぴったりと合いこの上ない達成感を味わいました。

二十年前から、小学校の茶道クラブ、大学の部活動をお与りしています。大学では毎年学内でお茶会を開催し、庭で育てた茶花の苗を土産に差し上げ、根付いた事、花が咲いた事を次年の茶会でお聞きするのが楽しみです。

特別寄稿

疫病の禍に入り 外出自粛に於て作あり

宗師範 中島 光陽

夜来雨過ぎて 黄砂を洗うも
瘧疾に普きて
嘆嗟すること多し
排悶纏纏す 分外の景
遙山の緑と 紫陽花と

〔詩意〕

昨夜の雨が、黄砂を洗い流してはいつたが、はやり病に浸された世の中は、嘆くことが、まだ多い。

自粛で閉じこもっている私の心の憂さを、ことのほか晴らしてくれるのは、遙かに見わたす山々の新緑と、雨で艶やかに、七変化の色で咲いている、紫陽花です。

三年前のみちのくのの旅

岩戸扇陽会 久我 節峰

雪にこもる里の年越し賑わす
か家をゆさぶる生はげの声
ナナンに跨がる三十九の子にも
絵札の一枚生はげ神社に暮れ

早きみちのくの空雲低く
灯りともさぬ道々の家

波しぶく不孝ふ死とつ湯場寒し
幾万の人を温めたる湯か

雪舞いて津軽三味線聞く宿に
踊るおばこの合いの手やよしつ

らら垂るるこが鶴の湯乳色に
心も染まる時を授かる
この夏に生れし初孫幼なけれど
白神に拾つまつぼつくりを

令和の里

坂本八幡宮で献吟

太宰府君陽会 上田 彰山

令和三年十一月二十七日、元号令和ゆかりの地、坂本天満宮で、神房しの神事が行われましたが、その席で大田君陽先生を中心に、君陽会のメンバーで献吟をいたしました。

我が園に 梅の花散る
久方の 天より雪の
流れ来るかも

大伴 旅人

坂本八幡宮は、大宰府政庁跡の西北の方向にあり、四王子山への登山口の近くで、四季折々の自然の中にひっそりとたたずむ神社ですが、その近くに、太宰府の師(フチ)に就任し

た、大伴旅人の邸宅があったと言われています。

旅人は邸宅に、山上憶良ら三十二人の役人を招き、梅の花をテーマに、梅花の宴を催しました。

その時に詠まれた中の一首であります。

茶友からの便り

宗師範 山田 啓陽

年が明けて届いた、茶友からの便りです。

何かと心がホッコリとなり、一人ではもったいなく、皆様にも味わっていただきたいと投稿しました。

「母は今年九十七歳。娘の名前を思い出すのに少し時間がかかるようになったが、それは年相応というもの。本人は「一二〇歳まで生きるとは元気がする」とすこぶる元氣だ。

母が一二〇歳―その時私は九十七歳。今の母と同じだ。私はそこまで生きる自信はないが、「そうだね。お母さんは一二〇歳までできると生きるよ。私のお葬式はお母さんに頼もうかな」と言ったら、「いいよ、任せ」だった。

母の返事に大笑いしながら、

「お母さん可愛いー産んでくれてありがとう」
母をハグした。

母ははにかんで、フフフと小さく笑った。」

宗像市日ノ里

坂本 恵子

いかがでしたか？
私も、この九十七才のお母様のように、ほほえましい生き方をしたいと願っております。

飯盛神社 献吟奉納のお礼

師 範 柴田 勘陽
師範代 江藤 炎陽

令和四年第四〇回飯盛神社献吟同好会十一名で、二月三日(月)飯盛神社境内に於いて献吟を行った。私は吟友の柴田勘陽先生の紹介により、古賀西陽先生を通じて会員になりました。

昨年はコロナのために残念ながら中止と成り、今年には直会はなしということで許可を得て実施のはこびとなりました。当日は参拝客も多く、寒さもあり午前十時から舞台より城丸警山先生の尺八の伴奏で順番に献吟を行い二時間で吟と和歌二曲を全員が元氣よく詠い奉納した。



第40回飯盛神社献吟会(みなさん今年も益々ご健勝で!!)

今回で四〇年間の長きにわたり戸川政陽先生はじめ有志の方々のためまい努力と強い意志で今日まで続けてこられたことに敬意を表したいと思います。

正月早々の行事でもあり、清々しい気持ちで有りがたさでいっぱいです。

終了後、参拝を行い記念写真に収まり、今後とも元氣で長く続けてゆくことが出来るよう祈年し、頑張ろうと思えます。諸先生方のご協力に感謝申し上げます。

曲水の宴に参宴

秘書部 諫山 星陽

去る三月六日(日)太宰府天満宮曲水の庭で、平安時代の宮中行事を再現する「曲水の宴」が催された。



曲水の宴風景

当日は好天に恵まれ満開の梅花の下で優雅にそして古代豊かに斎行された。

曲水の宴はコロナ禍の影響で二年振りの開催でした。

宴は祝詞奏上に始まり巫女さんによる神楽舞「飛梅の舞」そして箏曲演奏に合わせて白拍子姿の舞が華やかに披露された。



神楽「飛梅の舞」



白拍子姿の華麗な舞

鮮やかな十二単をまとった姫と衣冠束帯の諸官らが曲水の庭に設けられた流れに沿って座り流れてきた盃が自分の前を通り過ぎる前に和歌を短冊に認め酒を飲み干します。この日は満開の花びらが一ひら二ひらと舞って春うららかな光景を醸し出しました。



橋口康陽総師範



山田啓陽宗師範



田中了陽宗師範



諫山星陽宗伝



太宰府天満宮 第五十八回「曲水の宴」参宴記念 令和4年3月6日

曲水の宴は、古代中国奏の時代三月上旬に曲った河のほとりに盃を流してけがれをはらう儀式が始まりと言われています。今年には十二首の和歌が披露されました。朗詠者は田中了陽宗師範、山田啓陽宗師範、橋口康陽総師範、諫山星陽宗伝が声高らかに朗々と朗詠し、大役を無事務めました。

曲水の宴に参宴して

宗師範 田中 了陽

満開の梅の花の下、平安時代の絵巻物さながらの「曲水の宴」に、和歌朗詠者として参宴させていただきました。初めての経験で緊張していましたが、研修日のたびに和歌の指導をして下さった諫山星陽先生が、隣におられる事で心強く、無事大役を務めることが出来ました。一生かけても出来ない「曲水の宴」での朗詠は、私が西日本吟詠会の一員だからだと誇らしく思っています。

宗家会長先生、諫山星陽先生、本当に有難うございました。



右から山田啓陽、田中了陽、諫山星陽、橋口康陽各朗詠参宴者

曲水の宴に参宴して

宗師範 山田 啓陽

三寒四温、寒気が残る中、陽ざしも春らしくなり、紅白の梅も満開の神苑において曲水の宴が斎行されました。そんな中、朗詠者として参宴させていただきました。引締った雰囲気にも包まれている中、初めに、西高辻信宏宮司様から「参宴者に緊張もありましようが、平安時代の優雅な儀式を思い浮かべながら今日の日を楽しんで頂くように」とのご挨拶がありました。

神苑に入りますと、箏の音が続く中、稚児さんが両手でしっかりと運んでくる作者の短冊を、まず副会長の星陽先生から朗詠が始まり、「宴を楽しむけふのよき日に」と作者の詩を朗詠する私も、この佳日を体験させて頂き、この上なく幸せでした。由緒ある行事に参宴出来たのも、宗会長長諫山先生の日頃のご指導と感謝致しております。星陽先生には最後まで何かとお氣遣いいただいて、心からお礼申し上げます。諸先生方ありがとうございます。参りたいと心しております。

総師範 橋口 康陽

生まれて始めて、曲水の宴を拝見致し、又朗詠をさせて頂き、感謝と感激でいっぱいでした。梅の花も満開の中に宴が始まり、朗詠が始まり、寒さより無事に朗詠出来るか、ふるえてきました。でも無事に終る事が出来、安心致しました。ありがとうございます。



支部師範代 廣橋 岬陽

このお題をいただいてから、(私の宝物ってなんだろう?)と随分探しました。ふと思いついたのが、私が住んでいる所、日々の風景でした。

玄界灘沿いの、漁業と農業が主な産業の小さな集落です。

春になれば菜の花が咲き、田植え前には、畔がきれいに刈り取られ、床屋に行ったりばかりのようにスッキリした風景が広がります。

田植えが終わった後は、水をたたえた田んぼと蛙の大合唱が、夏



の訪れを感じます。漁港では、出航していく船の音と、船影を見ることができきます。

昔のように、地域中に収穫された魚のにおいが漂うことはありませんが、季節の魚をいただいで、季節を感じています。海沿いの地域ですので、塩害や砂害、強風には困る事も多いのですが、海に沈む夕日は日々姿を変え、見飽きるといふ事はありません。

よのくに 西日本吟詠会へ

◆太宰府天満宮支部

|| 松澤 涼

◆筑紫野学陽会 || 江上靖裕

◆吟友弘陽会 || 民門奈緒美

◆睦幸陽会 || 高山寺正子

◆宮崎鶯陽会 || 山際初子

ニコニコBOX

浄財ありがとうございます

(三月三十日現在) (順不同・敬称略)

- 豊福 恒陽・山田 啓陽
野村 聡陽・中島 光陽
諫山 星陽・橋口 康陽
山口 呂陽・橋崎 忠陽
久保山孝陽・前田 学陽
平山 恵陽・森 令陽
大田 君陽・林谷 典陽
小松 扇陽・田中 瑞陽
田中 観陽・溝口 征峰
肥塚 景陽・稲毛 紅陽
齊藤 汪陽・小路 糸山
河原田和陽・吉弘 翔陽
吉弘 翔陽・本田 雅陽
田中 了陽・近藤 晴陽
成海 宝陽・中島 光陽
河原田和陽・倉内 京陽
田中 了陽・白石 湊陽
香月 穂陽・柴田 勘陽

訂正とお詫び

吟友前号(第79号)一月号の記事中、誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

◇10ページ||九吟連秋季親睦会

誤||第六位||松岡葵陽・池田莉月・池田華月

正||第四位||松岡葵陽・池田莉月池田華月

編集後記

春になって、色々のコンクールが開催されるようになりました。広報部も忙しくなりましたが、嬉しいことです。部員の三人が、色々手伝ってくれて助かっています。



広報部員

- 担当役員 .. 鳥井 幸陽
広報部長 .. 松木 燦陽
部長代行 .. 花田 宏陽
副部長 .. 松下 瑛陽
部員 .. 林谷 典陽
.. 廣橋 涼陽
.. 船木 涼陽

発行者 亀井神道流西日本吟詠会
事務局 那珂川市道善三六 渡邊昇陽方
印刷所 井上紙工印刷株式会社